

謝 辞

平成15年1月に開始しました三重県地域結集型共同研究事業も、多くの研究成果を挙げ、5年間の事業期間を終えることになりました。

本事業においては、真珠養殖で有名な伊勢志摩地方にある英虞湾をフィールドとして、長年にわたる真珠養殖などで汚染された閉鎖性海域の環境再生を目的として、産学官民による共同研究に取り組んできました。

この共同研究によって、人工干潟の造成技術、潮止め堤防後背地への海水導入による干潟再生技術、藻場の造成技術、その他にも、海中の中層に生息基盤（アコヤガイ殻を用いた人工漁礁）を設置することで有機物の分解を促進する中層海底の設置やアコヤ貝の洗浄排水処理技術や貝肉処理技術など、様々な環境再生技術に関する研究成果が誕生しました。

本事業で開発されたこれらの環境再生に係る技術については、「環境再生技術集」として冊子に取りまとめましたので、閉鎖性海域の環境再生活動を活性化する一助としていただければ幸いです。

また、「英虞湾の環境動態予測」では、自動モニタリングシステムの開発とその本格的運用を行い、真珠養殖業者へのアンケートによれば約6割強が利用していると回答しており、環境情報の提供の役割を充分果たしたと考えられます。フェーズでの目標であった環境予測システムの開発についても、二日後の予測を、平成19年9月からインターネットのwebサイトで公開し、試験運用を行っております。

そして、このプロジェクトにおいて何よりも特筆されるのは、起業化が実現したことです。「人工干潟・藻場の造成技術の開発」の中で、英虞湾で浚渫土を水分と固形分に分離するために新規固化剤が開発され、この技術を事業化して広く応用展開を図ることを目的に、「(株)あの津技研」が設立されました。地元製紙会社などと東紀州環境システム有限責任事業組合を設立して、本格的に事業展開を行っております。

このように地域において起業化が実現したことに加え、英虞湾の再生に向けて多くの有益な成果を創出できたのは、文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構をはじめ志摩市や関係団体など地域の皆様の強力なご支援の賜であり、ここに事業に関係されました多くの方々に感謝の意を表します。

今後、本事業の成果については、形成される地域COEの拠点やこの地域の魅力に引き寄せられる人々との連携を密にして地域産業の活性化が図れるように、新技術・新産業の創出に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。関係各位におかれましては、引き続きのご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

三重県地域結集型共同研究事業

事業総括 飯 田 俊 司